

分野	見解等
<p>総括 P 3 0 P 3 6</p>	<p>(傾向)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現在の竹原市での暮らしに関する満足度（問3）の「わからない」の平均35.8%。 ○「市外に移り住む予定がある」「市外に移り住みたい」人の割合が、前回調査比で約3.0ポイント増→理由「買い物や通勤・通学などが不便」が約4割、「地域に愛着や魅力を感じない」が約3割。 <p>(認識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「分からない」の回答率が高いことについては、深く受け止めており、市からの情報が十分に伝わっていないことを示すもの。 ○買い物や通勤・通学について、市民の利便性を向上させる取組が必要。また、地域への愛着を持てるような取組が必要。 <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報発信のあり方（発信内容、発信方法等）についての再検討。 ○住みよさを実感できる総合的な取組の推進（雇用対策、歩行者等の交通安全対策、鉄道やバスなどの公共交通の充実など）。
<p>都市基盤・交通 P 1 2・1 3</p>	<p>(傾向)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マイナス評価 「鉄道の利便性」：20～29歳で約8割、40～49歳で約7割 ○今後の重要度 「生活道路の改良など」：5割半ば ○満足度について「わからない」と回答した人の割合 「港の安全性・利便性について」が約6割、「利用可能な空き家の把握・活用について」が約5割。 <p>(認識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若者だけでなく、今後の高齢化社会を見据えた公共交通のあり方についての検討が必要。 ○安全に通行できるような生活道路の整備が必要。 <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公共交通に係る各関係機関との連携など、総合的な交通対策の推進。 ○地元の要望等を踏まえた生活道路の充実。

住みよさ満足度アンケート結果を受けての市の見解等について

分野	見解等
<p>防災・安全 P14・15</p>	<p>(傾向)</p> <p>○マイナス評価</p> <p>「自然災害に対し、安心できるまち」：全ての世代で約5割</p> <p>「歩行者等の交通安全対策」：30代から70代で5割超 乳児等がいる世帯で7割超</p> <p>○今後の重要度</p> <p>「自然災害への対策や防災意識向上」：6割超</p> <p>(認識)</p> <p>○歩行者等の交通安全対策や、自然災害対策、防災意識向上について適切な対応が必要。</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>○現在の整備状況等を踏まえた自然災害対策や防災意識啓発の推進。</p> <p>○歩行者等の交通安全対策については、各年代のニーズを踏まえ、適切に対応。</p>
<p>環境 P16・17</p>	<p>(傾向)</p> <p>○マイナス評価</p> <p>「お住まいの地域の公園や緑地」：40～49歳で5割超 乳児等がいる世帯で5割超</p> <p>○今後の重要度</p> <p>「お住まいの地域の公園や緑地」：30～39歳で5割超 乳児等がいる世帯で約6割</p> <p>(認識)</p> <p>○地域の公園や緑地の満足度向上に向けた取組が必要。</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>○地域の公園や緑地が市民の憩いや活動の場となるよう、各年代や乳児等がいる世帯のニーズを踏まえた取組の推進。</p>

住みよさ満足度アンケート結果を受けての市の見解等について

分野	見解等
保健・医療・福祉 P18・19	<p>(傾向)</p> <p>○マイナス評価</p> <p>「救急や休日の医療体制の充実」：30～59歳で5割超</p> <p>「妊娠・出産への支援」：30～49歳で6割超</p> <p style="padding-left: 40px;">乳児等がいる世帯でいずれも6割近い</p> <p>○今後の重要度</p> <p>「救急や休日の医療体制の充実」及び「妊娠・出産への支援」を求める声が、5割超</p> <p>○満足度について「わからない」と回答した人の割合</p> <p>「妊娠・出産への支援」：4割超</p> <p>(認識)</p> <p>○救急や休日の医療体制の充実に向けた取組が必要。</p> <p>○妊娠・出産については、妊婦健康診査の開設に係る周知とともに、引き続き関係機関と連携し、医療提供体制の充実に向けた取組が必要。</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>○医療提供体制の充実に向け、引き続き竹原地区医師会をはじめ、その他関係機関と連携した取組の推進。</p>

住みよさ満足度アンケート結果を受けての市の見解等について

分野	見解等
<p>子育て P20・21</p>	<p>(傾向)</p> <p>○今後の重要度</p> <p>「安心して子どもを育てやすいまち」：49歳以下で5割超 乳児等がいる世帯では6割超</p> <p>「保育所（園）・幼稚園が充実しているまち」：20代30代で4割超</p> <p>「放課後児童クラブの時間延長など」：30代で4割超、40代で約4割</p> <p>○満足度について「わからない」と回答した人の割合</p> <p>「就学前の子どもに関するワンストップ相談体制の支援」：約8割</p> <p>(認識)</p> <p>・マイナス評価はどの区分も2割を超えていないものの、特に子育て世代における今後の重要度の高い項目については詳細なニーズ把握が必要。</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>○現状を踏まえ、子育て世帯のニーズを捉えた施策の検討。</p>
<p>教育・文化 P22・23</p>	<p>(傾向)</p> <p>○今後の重要度</p> <p>「あいさつ運動」：19歳以下で5割、20代以上で約3割</p> <p>「伝統芸能や歴史文化の継承・活用」：20～39歳で約3割</p> <p>「地域や家庭に根ざした教育」：30～39歳で5割超</p> <p>○満足度について「わからない」と回答した人の割合</p> <p>「地域や家庭に根ざした教育」及び「ふるさと教育」：約6割</p> <p>(認識)</p> <p>○マイナス評価はどの区分もほぼ2割以下となっているものの、今後の重要度について年代別で見ると、「あいさつ運動」など、20代30代を中心として割合が高く、教育において「地域との繋がり、地域文化」を重要と考えていると推測している。</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>○学校・家庭・地域が一体となって地域を愛する気持ちを醸成する取組の推進。</p>

住みよさ満足度アンケート結果を受けての市の見解等について

分野	見解等
<p>産業・買い物 P24・25</p>	<p>(傾向)</p> <p>○マイナス評価 「雇用対策」：全ての世代で7割超 60～69歳及び乳児等がいる世帯では8割半ば</p> <p>○今後の重要度 「雇用対策」：全ての世代で5割超 60～69歳で8割半ば、乳児等がいる世帯で約8割</p> <p>○満足度について「わからない」と回答した人の割合 「新たに創業を希望している人への取組」：約6割半ば</p> <p>(認識)</p> <p>○雇用対策については、マイナス評価及び今後の重要度がともに高いため、市の最重要課題と認識。</p> <p>○年代別で見たときの60代及び乳児等がいる世帯の割合が高い理由 ・定年後の雇用の受け皿不足 ・働き場所の選択肢不足（勤務時間のミスマッチ） などが考えられ、ニーズの的確な把握が必要。</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>○雇用対策については、就業希望者のニーズを的確に捉え、雇用の場の拡充に向けた施策及び関係機関との連携を推進。</p>
<p>市民生活 P26・27</p>	<p>(傾向)</p> <p>○マイナス評価 「世代を超えて交流する機会」：30～39歳、60～69歳、 65歳以上との同居世帯で5割超</p> <p>○満足度について「わからない」と回答した人の割合 「男女共同参画の推進」及び「協働のまちづくりの取組」：5割超</p> <p>(認識)</p> <p>○世代を超えて交流する機会の支援を図る等の取組が必要。</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>○隣近所や世代を超えた交流が行われるよう、地域の行事等に関する情報発信等の取組を推進。</p>

住みよさ満足度アンケート結果を受けての市の見解等について

分野	見解等
行政運営 P 2 8・2 9	<p>(傾向)</p> <p>○マイナス評価 「市民の意見の把握・反映」：30～69歳で約4割 乳児等がいる世帯で4割半ば</p> <p>○今後の重要度 「情報提供」：60代以下で4割超 「市民の意見の把握・反映」：70代以下で4割超 乳児等がいる世帯で5割半ば</p> <p>○満足度について「わからない」と回答した人の割合 ほぼ全ての項目で3割超（4項目/5項目）。</p> <p>(認識)</p> <p>○「市民の意見の把握・反映」についてのマイナス評価及び今後の重要度は30代以上で高い傾向にあり、特に子育て世帯において重要である。</p> <p>○特に子育て世帯において重要であると認識する理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市民の意見の把握・反映」の乳児等がいる世帯におけるマイナス評価及び今後の重要度が高いこと ・「安心して子どもを育てやすいまち」の乳児等がいる世帯における今後の重要度の割合が高いこと（P4） <p>これらの傾向を踏まえると、乳児等がいる世帯は、自分たちの意見が行政に把握・反映されておらず、自分たちの望む子育て環境が整備されていないとの思いから、「安心して子どもを育てやすいまち」を重要と捉え、それらの取組に力を入れてほしいと考えているのではないかと。</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>○住民ニーズの的確な把握（特に子育て世帯）及び庁内での情報共有体制の強化を図る。</p> <p>○各種行政情報の提供の充実及び分かりやすい情報発信の検討。</p>

住みよさ満足度アンケート結果を受けての市の見解等について

分野	見解等
市政の情報 発信 P 4 6 ~ P 4 8	<p>(傾向)</p> <p>○市の情報の入手手段とその割合</p> <p> 広報誌：約9割</p> <p> ホームページ：約1割</p> <p> ツイッターやフェイスブック：約0.3割</p> <p>(認識)</p> <p>○ホームページからの情報入手割合は、年代が高くなるにつれて低い。</p> <p>○ツイッターやフェイスブックは50代以上の情報入手方法としては、ほとんど利用されていない。</p> <p>(今後の方向性)</p> <p>○年代に応じた適切な媒体での情報発信の充実。</p>